

## 高校生とのまちづくりに関する意見交換会の開催報告

益田市都市整備課

## 1 開催目的

立地適正化計画策定にあたり、将来の益田市を担う若者の意見を聞き取るため

## 2 対象高校

島根県立益田翔陽高等学校（2年生）、島根県立益田高等学校（2年生）

※意見交換において町名や地区名等が頻出することから、市内出身者が過半数を超える高等学校と調整し実施

## 3 内容

- (1) 立地適正化計画の概要について説明
- (2) 個人ワーク①「将来、益田市のどこで暮らしたいか」
- (3) 個人ワーク②「将来の益田市に期待すること」
- (4) グループワーク「個人ワークをグループで共有」

## 4 意見等

- (1) 個人ワーク「将来、益田市のどこで暮らしたいか」

地区名	票数	理由（多数意見はカッコ内に数字を記載）
吉田地区	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店があり利便性が良い（13）</li> <li>・病院が近くにより安心できる</li> <li>・住み慣れているから</li> <li>・駅が近い（5）</li> <li>・徒歩や自転車で生活できる</li> <li>・益田地区や高津地区にも行きやすい</li> <li>・山が少なく災害の危険性が低いから</li> <li>・車が無くてもバスや鉄道で移動できるから</li> </ul>
高津地区	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住み慣れているから（6）</li> <li>・お店があり利便性が良い（6）</li> <li>・公園や河川、海など自然があるから</li> </ul>
市街地近郊	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人が良い</li> <li>・自然も近く、お店や施設にも行ける距離だから</li> <li>・祖母の家があるから</li> <li>・農地が多いから</li> </ul>
益田地区	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店があり利便性が良い</li> </ul>
郊外部	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住み慣れているから</li> <li>・静かで生き物の鳴き声など聞けることが日常となっているから</li> </ul>

(2) グループワーク「将来の益田市がどんなまちになることを期待しますか。」

<p><b>総 合</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少が止まり一定となり、子どもたちが増えて、市街地周辺が発展し、今よりも活気あふれる街</li> <li>・他県の人達が益田市に来てしか食べられない物、楽しめない物があるまち</li> <li>・高齢者がいきいきと暮らせるまち（働く場所、住む場所、買い物、運動をする場所、学びを得られる場所）</li> <li>・地産地消が行われ、自分たちの地域の魅力を認識し、誇りをもつ人が増えるまち</li> </ul>
<p><b>交 通</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通機関を充実させる。</li> <li>・鉄道の便数を増やしてほしい</li> <li>・高齢者が交通手段に困らないようなコミュニティバスが使える町</li> <li>・公共交通機関も多い町</li> </ul>
<p><b>自 然</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然はなくならないでほしい。</li> <li>・自然もお店もたくさんある町</li> <li>・若者向けの店があって、自然も楽しめるまち</li> <li>・自然が多く残っているまち</li> </ul>
<p><b>店舗・施設</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミマ、IKEA</li> <li>・イズミをもっと大きくしてほしい（GUとかお店）</li> <li>・遊園地、スキー場</li> <li>・もっと遊べる所が増えてほしい。</li> <li>・若い人が楽しめるような店を増やしてほしい。</li> <li>・都会に行かなくても買い物や遊びができる。</li> <li>・若者向けの店があって、自然も楽しめるまち（再掲）</li> </ul>
<p><b>コミュニティ</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが住みやすいまち</li> <li>・年齢関係なく仲良くできる町</li> <li>・人がやさしく安全で安心して住め、近くの人たちとのコミュニティが更に広がって高齢者も子供たちも楽しく過ごせるまち</li> </ul>
<p><b>安全・安心</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治安の良い町</li> </ul>

(3) 意見のまとめ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性を求められる生徒が多数いる一方、自然を大事にしたいと考える生徒も多い</li> <li>・自家用車を持たない世代であるからか、公共交通等の整備を求める生徒も多い</li> <li>・世代間がつながり、地域コミュニティが充実され、高齢者も子どもたちも楽しく過ごせるまちを望む意見も多い。</li> <li>・比較的、防災関係に対する意見は少ない</li> </ul>
---

## 5 まとめ

自動車等の交通手段を持たない世代においては、公共交通機関・徒歩によるまちづくりの必要性を再確認することができた。

具体的には、本計画案で示している居住誘導区域内に居住したいとの意見も多く、また一方、住み慣れた郊外部等の地域での居住を希望する生徒も、時々、中心部へ行けば買い物ができるのであれば生活に困らないといった意見であった。これらは本計画の方向性とも一致し、自家用車に頼らない生活環境の構築を促進することは、高齢者のみならず、若い世代においても必要な取組となることがわかった。

また、地域や世代間のつながりが広がり、高齢者がいきいきと安心して暮らせるまち・コミュニティの場の確保を望む意見も多くあり、都市活力の低下抑制を図るため、日常生活圏域・徒歩圏域への都市機能の集約について共通した認識を持たれていた。

高校生にとっても、住みやすいまちとは、歩いて行動できるまちであり、その範囲に都市機能を確保することが重要であり、意見交換会により立地適正化計画の方向性について意思共有を図ることができた。